

事業報告

1 総括

福祉や医療に関する法律や制度など障がい児・者を取り巻く環境が大きく変わろうとしている中、利用者の主体性と選択性を尊重し、自立と社会参加の充実を目指した事業展開に努めました。

小児部門においては、こども発達センターが利用者の希望のオアシスとして「さあ踏み出そう新たな一歩 チェンジ&チャレンジ」をモットーに、通園施設や地域支援のあり方を検討し、利用者アンケート調査を実施し、その結果を基に、療育内容の「更なる充実」を図りました。

また、成人部門においては、各施設の連携により、相談・生活介護・就労支援活動等の総合的専門機能を最大限に発揮して、障がい者の生活・就労支援を推進しました。

事業団としては、選ばれる法人を目指し、平成21年度から3か年計画の第2次活性化計画事業の確実な実施に努めるとともに、職員の資質向上のために職員倫理綱領の職員周知を進め、利用者支援の充実を図りました。

2 理事会・評議員会・監事会に関する事項

(1) 理事会の開催

■ 第1回理事会

日時 平成22年5月24日

場所 けやきワークス 2階会議室

議題 議案第 1号 理事の選任

議案第 2号 評議員の選任

議案第 3号 平成21年度事業報告及び収支決算

■ 第2回理事会

日時 平成22年11月24日

場所 けやきワークス 2階会議室

議題 議案第 4号 評議員の選任

議案第 5号 職員給与規程の一部改正

議案第 6号 平成22年度第1次補正予算

■ 第3回理事会

日時 平成23年3月23日

場所 けやきワークス 2階会議室

議題 議案第 7号 理事の選任

議案第 8号 評議員の選任

議案第 9号 事務局長の選任

議案第10号 施設長の選任

議案第11号 報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正

議案第12号 職員給与規程の一部改正

- 議案第13号 臨時職員雇用規程の一部改正
- 議案第14号 処務規程の一部改正
- 議案第15号 平成22年度第2次補正予算
- 議案第16号 平成23年度事業計画
- 議案第17号 平成23年度予算

(2) 評議員会の開催

■ 第1回評議員会

- 日時 平成22年5月24日
- 場所 けやきワークス 2階会議室
- 議題 議案第1号 理事の選任
- 議案第2号 平成21年度事業報告及び収支決算

■ 第2回評議員会

- 日時 平成22年11月24日
- 場所 けやきワークス 2階会議室
- 議題 議案第3号 職員給与規程の一部改正
- 議案第4号 平成22年度第1次補正予算

■ 第3回評議員会

- 日時 平成23年3月23日
- 場所 けやきワークス 2階会議室
- 議題 議案第5号 理事の選任
- 議案第6号 監事の選任
- 議案第7号 報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正
- 議案第8号 職員給与規程の一部改正
- 議案第9号 臨時職員雇用規程の一部改正
- 議案第10号 処務規程の一部改正
- 議案第11号 平成22年度第2次補正予算
- 議案第12号 平成23年度事業計画
- 議案第13号 平成23年度予算

(3) 監事会

- 日時 平成22年5月10日
- 場所 豊田市こども発達センター 2階小会議室
- 議題 平成21年度事業報告及び収支決算

3 受託施設事業報告

(1) こども発達センター

センター開設15年目、様々な取り組みを行い一層の発達支援・家族支援・地域支援の充実に努めました。祖父母支援、幼児期から学齢期への移行期支援は、重要な課題であるにもかかわらず従来取り組みが遅れていました。当事者・関係機関へのアンケート調査を行い現状と課題を把握し、支援の充実に努めました。制度改革検討委員会を設置し、障がい者・児童福祉制度改革に備えました。また、15周年記念事業として、ロゴマークの制定、記念セミナーの開催、センターにご貢献いただいた方々への感謝状の贈呈を行いました。

【重点目標】

- 1 発達に支援が必要な子どもが家族の中で健やかに育つには、祖父母の存在は重要です。祖父母へのアンケート調査や講演会等を通じて、祖父母支援の充実に努めます。
- 2 発達支援では、一貫性のある継続的支援が重要です。小学校への引継ぎの検討や保護者及び小学校等へのアンケート調査を通じて、就学移行期支援の充実に努めます。
- 3 センター開設15年目、更なる支援の発展を目指し、発達センターのロゴマークの制定と記念セミナーを開催します。
- 4 障がい児・者関連の制度改革に適切に対応するため、発達センター内に対策委員会を設置し検討を行います。

重点目標達成状況

- 1 発達センター利用者の祖父母へのアンケート調査を実施し、回答の結果をまとめて掲示しました。(診療所33人・たんぼぼ34人、回答率47.9%・ひまわり54人、回答率57.4%・なのはな29人、回答率46.7%・あおぞら171人、回答率64.0%)
また、ひまわり、なのはな、たんぼぼに通う利用児の祖父母に対し、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士が研修会を行い、利用児に対してさまざまな取り組みがなされていることを紹介しました。来年度以降は、今回の結果をふまえ祖父母の方々への支援の充実に努めてまいります。
- 2 就学移行期に関するアンケート調査を実施しました。診療所においては、保護者むけ調査には通院中の小学1年生、2年生の保護者118人から、また小学校むけ調査では、豊田市内全75校の特別支援教育コーディネーターから回答をいただきました。また、通園各施設においても保護者、特別支援学級、豊田養護学校、三好養護学校から回答をいただき、それぞれの結果をまとめ、保護者と学校それぞれからみたニーズについて検討し、報告書にまとめました。来年度以降は、今回の結果をふまえ就学移行期の支援の充実に努めてまいります。
- 3 11月7日に15周年記念セミナーを、「今、発達支援を考える」をテーマに開催し、247人の参加がありました。ひまわりネットワークによる「発達センター15周年記念特集」が生まれ、センターの活動を広くPRすることができました。また豊田市こども発達センターのロゴマークを一般公募し、応募のあった234件のなかから選出、制定しました。
- 4 制度の中から、障がい者自立支援法、児童福祉法、特別支援教育の3つを取り上げ、対策委員9人で対応について検討を重ねました。結果は「豊田市こども発達センター制度改革対策委員会報告書」としてまとめました。

① のぞみ診療所

障がいの早期発見・診断・治療と総合的評価を行い、多職種による専門的な訓練等により発達の促進と機能の改善を図りました。アンケート調査を行って、祖父母への支援や就学移行期における支援の推進に努め、障がい児・者の健康のしおりを作成して、地域保健医療の推進に努めました。診療所全職員によるケース検討会を実施し、ケースへの理解を深めて情報を共有し、職種間の連携を図って診療態勢の充実に努めました。

【重点目標】

- 1 祖父母へのアンケート調査を行い、祖父母も含めて保護者向けの勉強会や講演会を開催して、利用者支援の充実に努めます。
- 2 修学に際しての小学校への情報提供について、保護者の意向や希望、小学校が望む情報についての調査を行い、就学移行期支援の充実に努めます。
- 3 定期的にケース検討会を開き、のぞみ診療所の各職種間の連携を図って支援の方針を明確にし、利用者支援のさらなる充実に努めます。

重点目標達成状況

1. のぞみ診療所利用者の祖父母へのアンケート調査を実施し、33人の回答の結果をまとめて掲示しました。また、ひまわり、なのはな、たんぼぼに通う利用児の祖父母に対し、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士が研修会を行い、利用児に対してさまざまな取り組みがなされていることを紹介しました。来年度以降は、今回の結果をふまえ祖父母の方々への支援の充実に努めてまいります。
2. 就学移行期に関するアンケート調査を実施しました。保護者むけ調査には通院中の小学1年生、2年生の保護者118人から、また小学校むけ調査では豊田市内全75校の特別支援教育コーディネーターから回答をいただきました。それぞれを集計して結果をまとめ、保護者と学校それぞれからみたニーズについて検討し、報告書にまとめました。来年度以降は、今回の結果をふまえ就学移行期の支援の充実に努めてまいります。
3. 各職種間の連携を図りながらケース理解を深め、今後の支援に役立てることを目的に、困難事例についてのケース検討会を開催しました。年に2回、3つの分科会にし、それぞれ1ケースずつ計6ケースについて検討しました。診療所職員全員がいずれかの分科会に参加し、情報共有しました。

◇ 科別診療状況

診療科目	延べ人数	前年度比%	初診	前年度比%	訓練科目	延べ人数	前年度比%
児童精神科	8,081	93	436人	90	理学療法	4,372	116
小児神経科	2,691	96	144人	90	作業療法	5,217	116
小児整形外	3,166	98	170人	101	言語聴覚療	5,126	99
耳鼻咽喉科	637	90	79人	83	心理療法	2,016	90
泌尿器科	96	83	10人	71	訓練合計	16,731	107
小児歯科	4,174	105	82人	73	検査	2,300	103
合計	18,845	97	921人	89	薬局	7,367	96
					外来栄養食事指	237	89

◇診療所受診の実人数

区 分	22年度(人)		前年度比(%)	
	初 診	再 診	初 診	再 診
医 科	571	3,395	92	90
歯 科	82	748	73	95

② 地域療育室

◆ 相談支援グループ

こども発達センターの総合窓口として、子どもの発達とご家族の育児に関する各種相談支援に努めました。また、西三河北部福祉圏域のコーディネーターとして障がい児等療育支援事業を実施しました。

【重点目標】

- 1 豊田市中心身障がい児早期療育委員会事務局として関係機関と協力しながら、各事業についての在り方を検討し、持続的な支援ができるように検討します。
- 2 発達センターが行っている相談活動啓発のための資料を作成します。
- 3 今まで発達センターを利用したことがない人がセンターを利用しやすくなるような相談体制作りを検討していきます。

重点目標達成状況

- 1 4月に関係機関を訪問し、各事業の趣旨説明と各事業に対する意見の聞き取りを実施しました。23年度は巡回療育相談に子ども家庭課への協力機関としての参加を依頼していきます。その他、事業内容の周知に不足があったり、書式がわかりにくいという意見があり、その点については改善していきます。
- 2 発達センター利用の為の手引きの原案がほぼできましたが、23年度の業務マニュアル作成と合わせて、再度内容を見直します。外国人向けパンフレットについてはポルトガル語版、英語版を完成させました。
- 3 保護者や園などからの要望に合わせて、相手先に出向いて行う訪問相談を豊田市31件、みよし市18件行いました。また、仕事が休めず、平日では相談できないというケースのために、センターの家族参観日を利用し、休日相談を2件実施しました。

◇相談件数

相談件数(延べ)	月平均 件	前年度比 %
5,064	422	120

◆ 外来療育(あおぞら)

各種健診等で発達の遅れなどを指摘された概ね0～3歳の乳幼児を対象に、早期療育を行うとともに保護者に対しての子育て支援に努めました。

【重点目標】

- 1 祖父母へのアンケート調査や祖父母参観週間を実施し、祖父母支援の充実に図ります。
- 2 親子への支援の仕方をまとめたケース支援集を作成し、支援の充実に努めます。
- 3 新しいふれあいあそびの開拓をし、その充実に努めます。

重点目標達成状況

- 1 あおぞら利用者の祖父母向きアンケート調査を実施し、171人(267枚配布し、回答率64.0%)の回答の結果をまとめて掲示しました。また、今年度初めて、祖父母参観週間を9月13日から17日の1週間実施しました。祖父母32名の参観があり、「あおぞら」について、知ってもらうことができました。来年度以降は、今回の結果をふまえ祖父母の方々への支援の充実に努めます。
- 2 グループごとにケースを出し、ケース検討を実施しました。ケース検討後、親子への支援の方法をまとめました。また、活動の中で保護者が疑問に思っていること、伝えていくと良いことを出し合い、月1回話し合い、その内容を毎月たよりの裏面に『あおぞらQ&A』として掲載しました。その内容も合わせて、支援集にまとめました。
- 3 6月より毎月1回、新しいふれあいあそび、手あそびについての目的とねらいを保護者の目にとまる場所に掲示し、親子のふれあいあそびの大切さを啓発しました。また、親子で楽しめる新しいふれあいあそびを開拓し、ふれあいあそびの充実に努めました。

◇利用人員

登録人数	前年度比 %	利用人数(延べ)	月平均 人	前年度比 %
585	103	19,969	1,664	104

◇利用児の年齢等

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	平均年齢
人数	1	207	284	92	1	1.8歳

◇男女別の状況

男女別	男	女	合計
人数	397	188	585

◇進路の状況

進路	託児所 こども園	私立 幼稚園	ひまわり	なのはな	自宅	その他	継続
人数	152	136	16	14	26	27	214

■ 地域療育等支援事業

障がい児の地域における生活を支えるため、療育支援、相談等に努めました。

事業名	延べ人数等	前年度比%	備考
訪問療育指導事業	251人	121	訪問診査・相談
外来療育支援事業（わくわく）	588人	205	登録者 75人
施設支援一般指導事業	278回	104	講演会・事例検討会
栄養相談指導	776人	107	登録者 543人

■ 巡回療育指導

地域の障がい児、療育関係者への支援及び啓発研修を実施しました。

◇事例検討

地域	対象施設	園数	回数	対象児人
豊田市	公立・私立こども園、私立幼稚園、学校	95	225	329
みよし市	公立・私立保育園・幼稚園、学校	14	31	38
合計 (前年度比%)		109 (96)	256 (106)	367 (90)

◇地域支援事業派遣スタッフ延べ人数

名称	児童精神科医	小児整形科医	小児神経科医	整形科医	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	臨床心理士	支援員	相談員	保健師	管理栄養士	スタッフ計
訪問療育	0	0	0	0	0	1	1	21	1	17	3	2	46
前期巡回相談	0	0	0	0	0	9	28	61	36	49	13	0	196
後期巡回相談	0	0	0	0	3	9	14	49	15	37	11	0	143
随時巡回	0	0	0	0	1	1	14	58	5	22	6	0	107
園訪問	0	0	0	0	1	1	2	14	1	15	2	0	36
みよし市療育 研修会	0	0	0	0	0	0	3	4	2	6	2	0	17
公開保育	8	1	1	1	0	0	0	1	5	2	1	0	19
事後フォロー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学童保育 指導員研修	1	0	0	0	0	0	0	3	0	3	0	0	7
教職員向け ケース支援	1	1	0	1	5	1	0	4	0	2	0	0	14
学校検診	0	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5
スタッフ計	10	7	1	7	15	22	62	215	65	153	38	2	590

③ なのはな（定員30人）

0歳から就学前までの難聴児、言葉や対人関係の発達に心配のある子どもに対し、個々の子どもの聴力や発達に合わせた療育を超早期から行い、興味や関心の幅を広げ、コミュニケーションの楽しさを体験しながら、言葉を始めとする全体発達を促すよう支援をしました。

また、日々育児に当たる保護者に対しよりよい親子関係づくりができるよう支援をしました。

【重点目標】

- 1 発達に支援が必要な子どもが家族の中で健やかに育つには、祖父母の存在は重要です。難聴児・知的障がい児・自閉症児の祖父母へのアンケート調査や講演会を開催し、祖父母支援の充実を図ります。
- 2 難聴児・知的障がい児・自閉症児の発達支援では、一貫性のある継続的支援が重要です。小学校への引き継ぎの検討や保護者へのアンケート調査を通じて就学移行期支援の充実を図ります。
- 3 難聴児の早期発見と支援体制の充実に努めます。
 - ①人工内耳装用児の地域園生活への支援の充実のため、あいち小児保健医療総合センターとの連携を密にします。
 - ②子ども家庭課と共同して、新生児から療育に繋がるシステムの構築を検討します。
 - ③通常学級で学ぶ難聴児童・生徒への教育的支援のあり方を検討します。
- 4 家族通園による知的障がい児・自閉症児への支援の充実に努めます。
 - ①個別療育日の目的・内容・方法について再検討をします。
 - ②家族通園の意義や支援内容が分かりやすいリーフレットを作成します。

重点目標達成状況

- 1 なのはな利用者の祖父母へのアンケート調査を実施し、29人（対象数62人、回答率46.7%）の回答の結果をまとめて掲示しました。また、なのはなに通う利用児の祖父母に対し、祖父母参観日に言語聴覚士が講演会を行い、利用児に対してさまざまな取り組みがなされていることを紹介しました。来年度以降は、今回の結果をふまえ祖父母の方々への支援の充実に努めてまいります。
- 2 就学移行期に関するアンケート調査を実施しました。保護者向け調査には5歳児保護者6人と市内小学校1年生（なのはな卒園児）保護者1人から、また小学校向け調査では就学先の小学校から回答をいただきました。集計して結果をまとめ、保護者からみたニーズについて検討し報告書をまとめました。
- 3
 - ①重度難聴児について、高度医療機関で人口内耳埋め込み手術をし、密接な連携の下、なのはなで療育を行うという態勢をとりました。
 - ②平成21年度末に実施した新生児聴覚スクリーニングの実施状況についての結果について、関係医療機関に報告しました。
 - ③豊田市教育委員会、愛知教育大学と協同して、豊田市ならびに近郊地域の難聴児童生徒を受け持つ小中学校の教員を対象にした勉強会を開催しました。
- 4
 - ①個別療育マニュアルと単独通園マニュアルを作成しました。
 - ②個別療育計画作成マニュアルに基づき、保護者と相談しながら、個別療育計画を作成し、目標達成に向けて支援の充実に努めました。

◇利用人員

契約利用者数	提供日数	利用者延べ総数	利用率%
40人	241	4,283人	82.3

- *注 ① 「契約利用者数」は、施設との利用契約を締結した利用者総数
 ② 「提供日数」は、施設の開設日数
 ③ 「利用者延べ総数」は、各利用者が当該期間に通所した日数の合計
 ④ 「利用率」は、利用者が施設の開設日数のうち、どれだけ通所したかの割合
 「利用率」＝「利用者延べ総数」／「利用者通所可能延べ総数」
 「利用者通所可能延べ総数」は、各利用者が当該期間に通所可能だった日数の合計

◇利用児の年齢等

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	平均年齢
人数	0	5	3	23	2	7	3.1歳

◇男女別の状況

男女別	男	女	合計
人数	28	12	40

◇進路の状況

進路	公立・私立 こども園	私立 幼稚園	ひまわり	たんぼぼ	小学校	岡崎聾学校 (幼稚部)	継続
人数	8	2	10	1	7	1	11

④ たんぼぼ（定員40人）

0歳から就学前までの運動発達に障がいのある子どもに対し、個々の発達段階と障がいの特性を考慮して、身体機能をはじめとする全体機能の発達を促し日常生活動作が習得できるように支援しました。日々育児にあたる保護者に対し、保護者の役割と子どもとの適切なかわりの基本が習得できるように支援しました。

【重点目標】

- 1 発達に支援の必要な子どもが家族の中で健やかに育つには、祖父母の存在は重要です。肢体不自由児の祖父母にアンケート調査や講演会を行い、祖父母支援の充実を図ります。
- 2 肢体不自由児の発達支援では一貫性のある継続的支援が重要です。小学校への引き継ぎの検討や保護者へのアンケート調査を通じて就学移行期支援の充実を図ります。
- 3 肢体不自由児への超早期からの支援体制の充実のため、「わくわく」利用児、及び過去において利用された方々へのアンケート調査をし、必要とされる超早期からの支援の内容・方法・良かった点等を検討します。
- 4 療育内容（単独通園、個別療育、地域園交流等）の見直しを行い、更なる充実を図ります。

重点目標達成状況

- 1 たんぽぽ利用者の祖父母へのアンケート調査を実施し、34人（対象数71人、回答率47.9%）の回答の結果をまとめて掲示しました。また、たんぽぽに通う利用児の祖父母に対し、祖父母参観日に作業療法士が講演会を行い、利用児に対してさまざまな取り組みがなされていることを紹介しました。来年度以降は、今回の結果をふまえ祖父母の方々への支援の充実に努めてまいります。
- 2 就学移行期に関するアンケート調査を実施しました。保護者むけ調査には豊田養護学校小学部1年生（たんぽぽ卒園児）の保護者5人、たんぽぽ5歳児の保護者7人から、また小学校むけ調査では豊田養護学校から回答をいただきました。それぞれを集計して結果をまとめ、保護者と豊田養護学校それぞれからみたニーズについて検討し、報告書にまとめました。次年度以降今回の結果をふまえ就学移行期における支援の充実に努めてまいります。
- 3 「わくわく」利用児の保護者アンケート調査を10月20日～11月20日に行いました。58人の利用者の方に配布し、38人から回答をいただきました。（回答率65.6%）その結果を2月に行われた、豊田市保健福祉事業発表会にて報告しました。今後、今回の結果を参考に肢体不自由児への超早期からの支援の充実に努めます。
- 4 単独療育、個別療育、地域園交流について、ねらいの確認と内容の具体的な見直しを行い、問題点や課題に対する検討をしました。また、次年度に向けて、実施すべき内容を明確にしました。

◇利用人員

契約利用者数	提供日数	利用者延べ総数	利用率%
41人	241	4,229人	55.2

◇利用児の年齢等

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	平均年齢
人数	0	4	5	9	13	10	3.6歳

◇男女別の状況

男女別	男	女	合計
人数	26	15	41

◇進路の状況

進路	公立・私立 こども園	私立 幼稚園	ひまわり	なのはな	あおぞら	豊田養護 学校	岡崎盲学校 幼稚部	継続
人数	3	0	4	0	0	8	0	25

* ほかに、死亡 1人

⑤ ひまわり（定員50人）

3歳から就学前までの知的発達に遅れのある子どもに対し、個々の子どもの発達段階と障がい特性を考慮して、情緒の安定を図りつつ全体の発達を促しました。また、日々育児にあたる保護者に対し、保護者の役割と子どもとの適切なかかわりの基本を習得し、より良い親子関係づくりができるように支援をしました。

【重点目標】

- 1 発達に支援が必要な子どもが家族の中で健やかに育つには、祖父母の存在は重要です。知的障がい児・自閉症児の祖父母へのアンケート調査や講演会の開催を行い、祖父母支援の充実を図ります。
- 2 知的障がい児・自閉症児の発達支援では、一貫性のある継続的支援が重要です。小学校への引き継ぎの検討や保護者へのアンケート調査を通じて就学移行期支援の充実を図ります。
- 3 地域園交流のさらなる充実を図ります。
 - ①保護者の思いに添えるように回数や方法を検討します。
 - ②こども園との打ち合わせなど連携を深めます。
- 4 小学校やこども園との交流など、年齢や発達に応じた療育内容の充実を図ります。

重点目標達成状況

- 1 ひまわり利用者の祖父母へのアンケート調査を実施し、54人（対象数94人、回答率57.4%）の回答の結果をまとめて掲示しました。また、ひまわりに通う利用児の祖父母に対し、祖父母参観日に臨床心理士が講演を行い、利用児に対してさまざまな取り組みがなされていることを紹介しました。来年度以降は、今回の結果をふまえ祖父母の方々への支援の充実に努めてまいります。
- 2 就学移行期に関するアンケート調査を実施しました。保護者むけ調査には、卒園就学児保護者6人（対象者12人）及び在園年長児保護者15人（対象者15人）から、また学校むけ調査では三好養護学校や地域の小学校から回答をいただきました。それぞれを集計して結果をまとめ、保護者と三好養護学校などそれぞれからみたニーズについて検討し、報告書にまとめました。今回の結果をふまえ就学前後の児童及び保護者、三好養護学校、地域の小学校への支援の充実に努めてまいります。
- 3
 - ①地域園交流の回数や方法について保護者の意向を尊重し、見直しを行うとともに、卒園児の保護者を招き、在園後の成長の様子紹介や意見交換をしました。
 - ②地域園交流でのこども園との連携を通して、進路についての保護者への情報提供を充実しました。保護者と施設職員同じイメージを持てたことを今後の支援に活かしてまいります。
- 4 地域園交流や5歳児の学校訪問・特別支援学級の見学を、担任が現地確認したうえで実施し、成果をまとめました。今回の結果をふまえ、より年齢や発達に応じた効果が実感できるよう療育内容の充実を図ってまいります。

◇利用人員

契約利用者数	提供日数	利用者延べ総数	利用率%
50人	238	8,890人	85.8

◇利用児の年齢等

年齢	3歳	4歳	5歳	平均年齢
人数	17	18	15	4.0歳

◇男女別の状況

男女別	男	女	合計
人数	35	15	50

◇進路の状況

進路	公立・私立 こども園	私立幼稚園	小学校 特別支援学級	三好養護学校	継続
人数	17	0	4	11	18

⑥ 管理担当

事業団各施設に安全で質の高い給食を提供するとともに、こども発達センターを利用される人に、快適に利用していただけるよう施設の管理を行いました。

【重点目標】

- (1) 就学後の給食実態を把握し、今後の支援に生かします。
- (2) センター開設15周年にあたり、センター内の標識・看板等について検討し、利用実態にあった、利用者の方にとって見やすく、分かりやすいものに直します。
- (3) 災害時の要援護者に必要と思われる食品等の備蓄リストと、その調理方法について解説した「備蓄品ガイド」を作成します。
- (4) センターにおける文書取扱いを始めとした基本的な事務について、適切な処理を行うための事務業務マニュアルを作成します。

重点目標達成状況

- 1 三好養護学校、豊田養護学校の給食の調理・給食場面を見学し、当センターとの違いをまとめました。来年度は、その結果より、就学後を考慮した給食支援にいかしていきます。
- 2 センター内の標識・看板等について、利用実態にあった利用者の方にとって見やすくするため、関係者の意見及び現場の状況を確認し、取替え等（のぞみ診療所室名札22枚、案内図3枚、部門案内板6枚）を行いました。
- 3 管内栄養士会和協力し災害時の要援護者に必要な備蓄食品ガイドの原稿を作成しました。東日本大震災の発生により来年度は、被災状況を加えた備蓄ガイドを作成していきます。
- 4 センターにおける文書取扱いを始めとした基本的な事務（予算執行・決裁手順等）について「事務業務マニュアル」を作成しました。

⑦ その他

■ センターセミナー

平成22年11月7日（日）に、15周年記念セミナー「今、発達支援を考える」をひまわりホールにて開催し、247人の参加がありました。

■ こどもひろば利用者の状況

利用日数	利用者数（延べ）	1日平均	月平均	前年度比 %
218	2,444人	11.2人	203.7人	140.5

■ こどもひろばボランティア

活動日数	参加人数（延べ）	1日平均	月平均	前年度比 %
218	1,071	4.9人	89.3人	119.0

■ 視察者

愛知県医師会、沖縄県発達障害者支援センター、流山市議会、オーストラリア人医師等の視察を受け入れました。

件数	延べ人数	1団体平均	月平均	前年度比 %
55	1,042	18.9人	86.8人	110.5

(2) 障がい者総合支援センター

障がい者の支援拠点として、成人4施設が一体的な運営を行うことにより、障がい者の日常生活や就労に関する相談や支援を総合的にできるように努めました。

【重点目標】

- (1) 家族会等、当事者団体や障がい者関連諸団体の活動や運営についての相談支援の充実に努めます。
- (2) 地域住民との交流・啓発を行い、障がい者の地域生活支援の充実に努めます。
- (3) 成人4部門間の更なる連携強化を図り、障がい者総合支援センターの一体的な運営を推進します。

重点目標達成状況

- 1 障がい児・者の親の会やNPO法人などの関係団体の運営に対する助言・支援や会議でのアドバイザーの役割を担うなど、円滑かつ発展的な法人運営を行うために支援しました。
- 2 「なつまつり」や「よっていきん祭」を開催し、地域住民との交流を深め、障がい者の地域生活支援の充実に努めました。
- 3 成人4施設において一体的な支援ができるよう、施設長級による連絡会議を8回、各施設の調整担当者による会議を7回、合同会議を2回実施し、施設利用者の生活面における困難事例等の協議や成人施設間の情報共有を行いました。

また、成人部門の一体的な取組みとして、新成人の祝いを開催するとともに、障がい者総合支援センター研究紀要を発行しました。

① 就労・生活支援センター

障がい者が地域で自立した生活ができるよう総合的な支援を行うとともに、就労支援については、けやきワークスを始め他機関と連携して一般就労を推進しました。また、国・県の「障害者就業・生活支援センター事業」を受託し、みよし市も含めた西三河北部圏域における就労支援の拡充を図りました。

【重点目標】

- (1) 関係機関との連携を強化し、就労支援の充実を図ります。
- (2) 企業内の障がい者サポート担当者への支援を充実します。
- (3) 障がい者支援従事者の育成を行います。

重点目標達成状況

- 1 豊田公共職業安定所と豊田市地域自立支援協議会就労支援部会との共催による「障がい者雇用のためのセミナー」の実施、豊田公共職業安定所との3回の情報交換会や養護学校訪問等を行い連携の強化を図りました。
- 2 企業内の障がい者サポート担当者相互や福祉関係者とのネットワーク構築を行うため、障がい者雇用に積極的な企業9社との「企業内障がい者サポート担当者情報交換会」を開催し、企業が抱える課題や連携等について協議しました。
- 3 障がい者支援従事者を対象に、ケース検討を行う際の基本姿勢や視点を修得するための研修会を開催しました。

◇関係機関協働事業

事業名	事業内容
障がい者雇用のためのセミナー	豊田市、豊田公共職業安定所、愛知障害者職業センター、愛知県雇用開発協会と共催でセミナーを実施しました。市内事業所、福祉関係者を対象に障がい者雇用に必要な情報提供や関係支援機関による支援体制について理解を深めました。 11月25日(木) けやきワークス2階共用会議室で実施、58人参加(企業34社39人、福祉関係:14事業所19人)

◇人材育成研修事業

事業名	事業内容
障がい者ケアマネジメント従事者及びヘルパー等フォローアップ研修	障がい者ケアマネジメント従事者及びヘルパー等を対象に研修会を開き、支援技術の向上を図りました。 2月13日(水) けやきワークス2階共用会議室で実施、福祉関係15事業所21人参加

◇総合相談事業

事業名	事業内容
総合相談窓口	相談件数 8, 384 件 新規相談者数 126 人 (内みよし市 10 人) (身体 30 人、知的 50 人、精神 21 人、その他 25 人)
関係団体への相談支援	養護学校、関係団体への相談支援 12 件 豊田市地域自立支援協議会 就労支援部会への相談支援 22 件 みよし市地域自立支援協議会 就労支援部会 (準備会) への相談支援 14 件

◇就労支援事業

事業名	事業内容
職場開拓	137 社訪問、訪問回数 528 回、 就労実績 53 人 (内みよし市 4 人) (身体 16 人、知的 27 人、精神 7 人、その他 3 人)
関係機関訪問	豊田公共職業安定所訪問 66 回、 福祉機関 8 事業所 21 回
ジョブコーチの企業訪問 等による障がい者支援	支援者数 621 人、支援回数 1, 118 回

② けやきワークス (定員 50 人)

概ね 18 歳以上で身体障がい・知的障がいのために雇用されることがむずかしい人に対し、就労訓練による企業への就労支援や、自己の能力に適した福祉的就労の場を提供し、職業能力及び社会適応性を高め、社会参加の促進に努めました。

【重点目標】

- (1) 就労移行支援事業において、基礎的訓練プログラムを充実し実践します。
- (2) 就労移行支援事業において、関係機関との連携を強化し就労支援を充実します。
- (3) 就労継続支援事業において、工賃引上計画に基づき目標工賃達成を目指します。

重点目標達成状況

- 1 就労移行支援事業において、履歴書の書き方、面接の練習、身だしなみ講座などの基礎的訓練プログラムの内容を充実するとともに、28 回の訓練を実施しました。
- 2 就労生活支援センターから 4 名の利用者を受け入れ、短期間での就労を目指しましたが、就労者数は 1 人とどまりました。
- 3 就労継続支援事業において、絵画レンタル事業の大口契約の締結、卸売市場での施設外就労契約の継続更新、犬用クッキー販売網の拡大、喫茶の新メニューの開発、新たな事業として海老せんべいの試作開発研究などを行いました。月平均工賃は 33,840 円にとどまり、目標工賃 38,000 円には届きませんでした。

◇利用人員

	契約利用者数	提供日数	利用者延べ総数	利用率 %
就労移行支援事業	15人	242	2,163人	72.1
就労継続支援事業	42人	242	8,408人	84.1

◇利用者の年齢等

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳以上	平均年齢
就労移行支援事業	7人	5人	2人	1人	0人	23.8歳
就労継続支援事業	1人	13人	13人	12人	3人	35.0歳

◇利用者の性別

男女	男	女
就労移行支援事業	7人	8人
就労継続支援事業	25人	17人

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳			身体障がい者手帳					
	A判定	B判定	C判定	1級	2級	3級	4級	5級	6級
就労移行支援事業	1人	5人	7人	2人	0人	0人	0人	0人	0人
就労継続支援事業	10人	10人	2人	10	5人	7人	2人	0人	0人

◇退所者状況

	自宅	就職	その他	計
就労移行支援事業	1人	4人	0人	5人
就労継続支援事業	0人	0人	2人	2人

③ 第二ひまわり（定員70人）

概ね18歳以上の知的障がい者に対し、生活作業活動等を通して社会生活への適応能力向上への支援を行い、日々の生活の充実と社会参加の促進を図りました。

【重点目標】

- (1) 福祉および教育施設等を含めた地域交流を積極的に行います。
- (2) 福祉サービス事業者や医療機関との連携を図り、利用者・保護者のニーズに合った福祉サービス利用や医療機関受診を促進します。
- (3) 利用者の障がい程度の重度化や高齢化等の課題に対応するために、職員の知識・支援技術の向上を図ります。

重点目標達成状況

- 1 知的障がい者への正しい理解と支援の仕方を習得するために、挙母小学校の児童と崇化館中学校始め7小中学校の生徒と積極的に交流活動を行い、福祉教育の推進を図りました。
- 2 のぞみ診療所及び嘱託歯科医師の定期健診による利用者の健康状況把握と支援方法の課題事項の検討などを行い、医療との連携を密にした健康支援に努めました。また、他福祉サービスや医療機関の利用が困難な利用者に、職員が付き添い、慣れる支援を実施しました。
- 3 利用者の障がい程度や年齢に応じた活動を検討し、整形外科医や作業療法士など専門職員から助言を受け、活動を組み立てて実施しました。

◇利用人員

契約利用者数	提供日数	利用者延べ総数	利用率 %
71人	243	14,101人	84.8

◇利用者の年齢等

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	平均年齢	男	女
人数	5	18	36	9	3	32.9歳	48	23

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳		身体障がい者手帳					
	A判定	B判定	1級	2級	3級	4級	5級	6級
人数	69	2	2	3	2	1	0	1

◇退所者状況

通所施設	入所施設	ケアホーム	死亡	家庭	計
0人	4人	0人	1人	1人	6人

④ 暖（定員36人）

概ね18歳以上で知的・身体的に重複した障がいのある人に対し、生活・作業活動を通じて社会参加への適応能力の向上を支援し、日々の生活の充実と社会参加の促進を図りました。

【重点目標】

- (1) 重症心身障がい者支援のための専門研修の充実と、市内事業所へ専門職を派遣し支援技術の向上を図ります。
- (2) 医療的ケアの正しい理解と支援態勢を整備します。
- (3) 医療機関等との連携を強化して、生活支援の充実を図ります。

重点目標達成状況

- 1 重症心身障がい者支援のための専門研修を実施するほか、市内事業所へ作業療法士などの専門職を派遣し支援技術の向上を図りました。
- 2 医療的ケアの動向を把握し、当施設における医療的ケアのプロセスの正しい理解と支援態勢の整備を図りました。
- 3 医療機関や訪問看護事業所等と意見交換などを行い、利用者の健康支援と生活支援の充実に図りました。

◇利用人員

契約利用者数	提供日数	利用者延べ総数	利用率 %
37人	243	7,053人	88.4

◇利用者の年齢等

年齢	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	平均年齢	男	女
人数	3	19	14	1	0	27.4歳	16	21

◇障がい者手帳保持状況

手帳の種類	療育手帳			身体障がい者手帳					
	A判定	B判定	C判定	1級	2級	3級	4級	5級	6級
人数	36	0	1	25	9	3	0	0	0

◇退所者状況・・・退所者：0人

⑤ その他

■ 福祉事業団「第6回障がい者総合支援センター新成人の祝い」の開催

[平成23年1月14日(金)]

障がい者総合支援センターの利用者とその家族、地域の方、ボランティア等多くの方で、新成人になった利用者9人の節目を祝福しました。(参加者320人)

■ 視察者の状況

一宮市福祉事業団を始めとして、下記のとおり視察者を受け入れました。

件数	延べ人数	二団体平均	月平均	前年度比 %
127	793	6.2人	66人	90.0

4 事務局

事業団職員として常に適切な行動が取れるよう「職員倫理綱領」「職員行動規範」の周知を行いました。春先に全施設で職場研修を行い、「行動確認表」を使って各自で年度末までの目標を設定して達成に努めました。

また、職員育成方針に沿って、職員の施設間実習、各種外部研修・先進地派遣研修への積極的職員派遣など、人材育成に取り組むとともに、第2次活性化計画で予定した台数を上回るパソコンの増設を行い、情報化の推進を図りました。

【重点目標】

- (1) 事業団設立以降、個別に必要な改正を施してきた規程集について、全規程を通じた整合性の確認や内規等の補足規定の整理などを行い、全体的な整備を図ります。
- (2) 職員育成方針に基づく計画的な人材育成や円滑な人材活用を目指し、職員各層に必要な能力獲得のための研修の実施や運営上で職員に必要な資格等の取得計画を検討します。
- (3) 事務の合理化と情報化の推進を目指し、職員用パソコンの必要台数配備と情報の保護対策を検討します。

重点目標達成状況

- 1 公募で職員による機構検討委員会を設置して検討を重ねました。結果報告を受け、こども発達センター各施設の事務分掌の改正を行い、給食部門の配置を引き続き検討することになりました。
- 2 公募で職員による研修計画検討委員会を設置して検討を重ねました。結果報告を受け、先輩職員が1年間、毎月交代で講師を務める新規採用職員研修を平成23年度から行い、豊田市や愛知県社会福祉協議会が開催する当事業団の職員育成方針に沿った研修に積極的に参加します。
- 3 職員用パソコンの台数を第2次活性化計画の23年度末目標台数(120台)以上に増やして(135台)情報化に努めました。

5 実習の受入れ

各関係機関の要請に応じて、医師、歯科衛生士、心理療法士、大学生、専門学校生、教員及び市職員等の実習並びに児童・生徒の福祉体験学習の受け入れを行いました。

■ 実習・研修

実習・研修項目	学 校 ・ 団 体 名	人 数	延べ日数
医 師	あいち小児医療総合センター、城山病院	2	22
看 護 師	加茂看護専門学校、トヨタ看護専門学校	67	67
歯科医師	愛知県歯科医師会、一宮歯科医師会、名古屋市港区 歯科医師会	29	29
歯科衛生士	三河歯科衛生専門学校、名古屋デンタル衛生士学院、 愛知県歯科衛生士会、開業医歯科衛生士	71	83
理学療法士	名古屋大学、東名古屋病院附属リハビリテーション 学院、中部リハビリテーション専門学校、名古屋学 院大学等	7	79
作業療法士	名古屋大学	3	36
言語聴覚士	日本聴能言語福祉学院、愛知学院大学、日本福祉大 学中央福祉専門学校	16	105
教育・社会福祉・介護	中京大学、愛知みずほ大学、桜花学園大学、慈恵福 祉保育専門学校等	74	1,012
職員研修（実習）	市保健師・保育師・教員、豊田養護学校、豊田高等 養護学校、三好養護学校、岡崎福祉事業団等	263	1,988
合 計 (前年度比%)		532 (104)	3,421 (178)

■ 体験学習・福祉学習

学 校 名 等	人 数	延べ日数	受 入 施 設
小学校（挙母小学校始め2校）	123	973	こども発達センター、第二ひまわり
中学校 （崇化館中学校始め14校）	211	118	ひまわり・けやき・第二ひまわり等
高等学校（聖カピタニオン高校 始め3校）	43	53	ひまわり・第二ひまわり
養護学校 （豊田養護学校始め6校）	34	293	ひまわり・けやき・第二ひまわり等
合 計 (前年度比%)	411 (150)	1,437 (377)	

6 講師派遣

派遣職種	対象者	講演内容等	回数
医師	教員・保育士・保護者・学生・一般等	自閉症・ADHD・子育て・保育・教育・障がいについて等	65
理学・作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、歯科衛生士、管理栄養士等	学生・教員・保護者等	リハビリテーション・障がい・子育てについて等	51
合 計 (前年度比%)			116 (110)

7 ボランティア活動

多数のボランティアのご協力をいただきました。

活動施設	活動内容	活動回数	活動延べ人数	活動団体・個人
こどもひろば (再掲)	園児等の兄弟姉妹の託児	218	1,071	学生・個人等
あおぞら	母子分離時のこどもの託児	59	198	とまと
たんぼぼ	母子分離時の療育援助等	47	180	卒園児保護者OB 学生・個人 豊田ボランティア
ひまわり	プール活動等の兄弟姉妹の託児	34	39	卒園児保護者OB 等
第二ひまわり	利用者の活動援助等（リズム・おどり・ウォーキング等）	121	1,152	個人・民生委員等
暖	利用者の活動援助等（音楽・一般等）	150	209	学生・個人
けやきワークス	慰問・施設環境整備	3	24	個人・梅坪台ブロック
合 計 (前年度比%)		632 (99)	2,873 (148)	